

山田地域 まちづくりと公共施設の 「これから」を考えるワークショップ

8月23日（日）に
開催しました第2回
ワークショップについて
お知らせします！

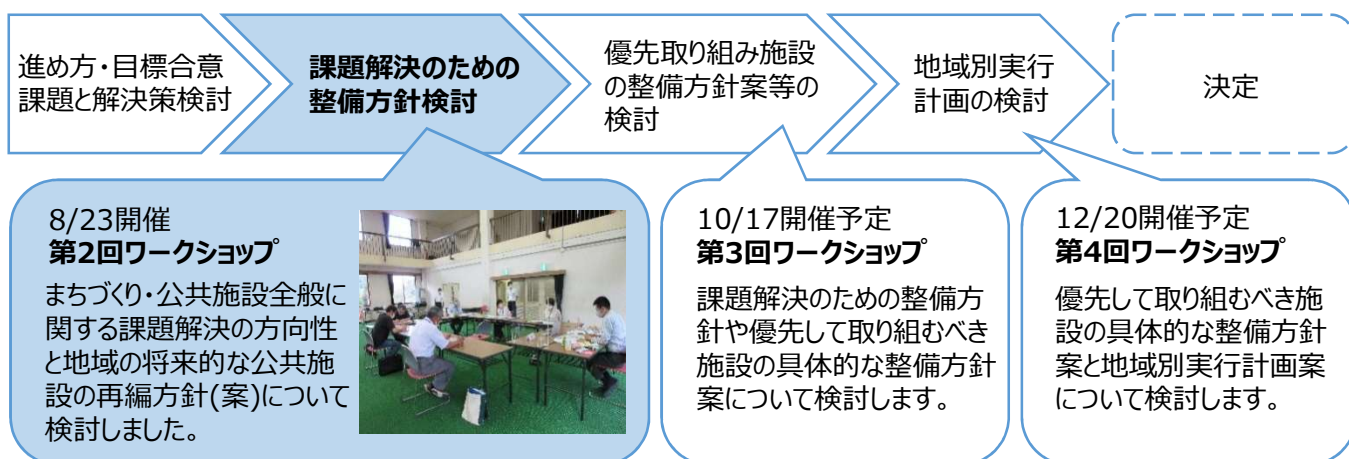
富山市では、今年度、山田地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいの皆様と富山市がともに考えるワークショップを開催しています。8月23日（日）に第2回ワークショップを開催しましたので、その内容をお知らせします。

また、ワークショップで話し合われている内容等についてのご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップにて紹介し、検討を進めていきます（裏面の「ご意見募集」をご覧ください）。

検討の進め方

富山市は、このワークショップをはじめ、広く地域の皆様からいただいたご意見を反映させた、山田地域における公共施設の用途別に将来の整備方針を定める「地域別実行計画」を策定します。

策定までは、下図のように段階的に検討を進めます。



第2回ワークショップでは、第1回ワークショップで出されたご意見を5つの視点で整理し、まちづくり・公共施設全般に関する課題解決の方向性と、地域の将来的な公共施設の再編方針(案)を用途別にまとめ、他に追加すべき視点や用途別の課題はないか、それらの課題を解決するためにはどうすればよいか等について意見を出し合いました。

まちづくり・公共施設全般に関する課題（5つの視点）

① 地域拠点を核とした活性化

- 人口減少への対応が必要
- 地域コミュニティ維持のため多世代が利用できる施設が必要

② 地域資源の有効活用

- 観光施設、レクリエーション施設の有効活用が必要
- 稼働率を上げるための工夫が必要

③ 子育て環境の充実

- 園児、児童、生徒数の減少

④ 安全性の確保

- 避難所へのアクセスの確保
- 施設の老朽化、耐震性への対応が必要

⑤ 将来負担の軽減

- 将来の人口規模を見据えた施設の整理が必要

※視点「⑤将来負担の軽減」については、地域の将来的な公共施設の再編方針（案）の検討にあたっての前提条件とします。

第2回ワークショップのご意見（抜粋）

◆ まちづくり・公共施設全般に関する課題（5つの視点について）

■ 全般

- 前回の議論が反映されており、網羅されていると思うが、「④安全性の確保」については、中山間地で危ない道が多い地域なので、避難場所までの避難経路の安全性が心配である。なるべく具体的にそれぞれの経路の安全性を考えてほしい。
- 防災面については、山田地域では既に河川改修や地すべり防止の対策は行われており、対策がなされている前提で地域住民が利用しやすい施設配置を考えていきたい。

◆ 地域の将来的な公共施設の再編方針（案）

1) 集会施設

■ 山田公民館

- 山田公民館に中核型地区センターをはじめとして郵便局やコンビニなど様々な機能を複合化し、将来的には地域の中心的な役割を担う建物になれば良いと思う。
- 山田公民館と中核型地区センターを複合化して地域の中心的な拠点にするのは賛成だが、地すべりや水害などの災害時に避難所としての役割を果たせるのか心配である。
- 山田公民館が旧耐震基準であることが気になっている。利活用するのであれば、耐震補強をしっかりとしてほしい。
- 公民館は避難場所として指定され、駐車場も確保できているため、安全性、利便性ともに良い。公民館と中核型地区センターを複合化するのであれば、公民館側に複合化した方が良さそう。公民館のすぐそばに川はあるが、既に護岸工事は行われているので、氾濫は考えにくい。
- 後から建てられた情報センターの部分はまだ新しく、引き続き利用できるはずなので、中核型地区センターにある機能全部と公民館の事務所の機能にし、昔からの公民館の部分は改修をした上で集会機能を確保すれば良い。その際にコストを下げるため上の階を無くして階層を下げることを検討しても良いだろう。
- 複合化を機に改修するのであれば、建物全体のバリアフリー化や、不要な部屋や和室は見直し、さらに年配者等がよく使う部屋は1階に配置してほしい。

■ 山田交流促進センター

- 周辺の牛岳温泉健康センターやふれあいの里ささみねと、以前のように多人数の合宿を分担して受け入れるなどの利用がなされるのであればこのまま活用するのが良いと思うが、今はそのような連携がとれていないようで、うまく利活用ができないのであれば、廃止はやむを得ないと思う。
- 全市的に「小学校区に1か所の配置を目指し、集約を図る」ことが方針であるならば、地域住民が年に1回程度しか利用しない山田交流促進センターを廃止にし、山田公民館を維持してほしい。
- 山田交流促進センターは一次避難所に指定されているが、高台にあり道が狭いので災害時、車がない高齢者は行くことができないし、渋滞するだろう。土砂崩れもあるかもしれない。災害時は地域の集会所に避難することになっているので、廃止されても不安ということはないと思うが、一次避難所は別の場所に確保してほしい。
- 民間に売却して別の用途として利用するのもひとつの方法だと思う。

- 利用率は低い立派な施設ではあるので、高齢者が使いやすいようにエレベーターを設置するなどバリアフリーを進めて、催し物やイベントができるように活用方法を考えたい。また、文化祭などの地域の催しの半分は山田交流促進センターを利用するなど、運営面も工夫をすることで利用率を高め、利活用されている施設であることを市にアピールできると良い。

2) 図書館

■ 山田図書館

- 学校の図書室としての役割もあるのでなくされては困る。学校の図書活動では、毎週金曜日に必ず本を借りるようになっており、おかげで子どもが本好きになっている。
- 山田小学校の中に図書館ができたことで、子どもたちが利用しやすくなり利用率があがったようだが、一方で一般の人が入りづらい雰囲気がある。一般利用もできる市の図書館であることをもっとPRして、利用を増やしていけると良い。

3) スポーツ施設（体育館、プール、その他スポーツ施設）

■ スポーツ施設全般

- 公共施設を廃止する必要があるならば、山田総合体育センターと山田総合グラウンドは地域住民に使われていないので廃止の優先度は高いと思う。運動会や地域行事も学校のグラウンドを利用するため、支障はないだろう。

■ 山田総合体育センター

- 市内のスポーツ施設の窓口と一本化され、中核型地区センターで予約受付していた頃よりも使いづらくなったし、抽選で落ちてしまうことがある。学校の体育館の方が費用負担もなく予約手続きもわかりやすいため、地域住民はそちらを利用している。
- 山田地域住民はほとんど利用せず、地域外の人利用している。地域の人口規模で考えれば、もともと他地域からの利用を想定して体育館を建設している。他地域の利用を促進することが大事ではないか。

■ 山田総合グラウンド

- 水はけが良いので、他地域の硬式野球チームの練習場として利用されている。地域の人は学校のグラウンドを利用するので山田総合グラウンドはあまり利用しない。

4) レクリエーション・観光施設

■ 施設全般について

- 市内の他施設と一律の利用料金を基本とするのではなく、地域の特色に合わせ臨機応変に利用料金等を設定できるような柔軟性を持たないと、利用者目線に立った観光施設の活用を考えるのは難しいと思う。

■ 人工造雪多目的施設

- 造雪機が故障し修理費用が高く修理ができないと聞いたし、施設のコストも思っている以上にかかっていることが分かったので、今後利用できないことになってしまったら仕方ないと思うが、牛岳温泉スキー場だけは残してほしい。
- 人工造雪機があるのは魅力のひとつだと思う。現在は故障していて使えない状態になっているので、過疎対策事業債などの財源を確保して人工造雪の機械を購入してはどうか。
- 人工造雪機は地域振興として利用客を集めるためには必要だと思う。暖冬でもスキーができるのは他地域へPRするポイントになっている。今後もこれを活かして地域が衰退しないようにしたい。

◆ 地域の将来的な公共施設の再編方針（案）

- 今後、さらに温暖化が進むと雪が降らなくなるので、スキー自体ができるのかも疑問である。場合によってはスキー場や人工造雪多目的施設を冬場やスキーのためだけに利用するのではなく、違う用途で使うことを考えても良いのではないかと。専門家の意見をもらいながらスキー場の将来像を考えた方がよい。

■ 牛岳温泉スキー場

- 牛岳温泉スキー場は、もともと過疎対策で作られた。若者が山田地域に遊びに来ることで地域の良さを知り、居住者を増やしたいとつくられたが、実際はあまり増えてはいない。スキー人口も減り、当初と比べると期待もなくなってしまった。
- 市が財政上、運営していくことが厳しいのであれば民営化は仕方ないが、スキーブームも過ぎ、暖冬やコロナ禍の状況で、運営を担ってくれる民間企業があるのだろうか不安。運営主体は市でも民間でもどちらでも良いが、なんとか存続してほしい。
- 地域活性化のためにつくられたスキー場であるが、合併してからは予算が削られて魅力がなくなってしまった。スキー教室もあり、安全に雪と触れ合えるので子どもたちにとっては貴重な経験ができる良い場所である。また、富山市の中心部からも近く利便性も高い。もう一度予算をかけてもらい、上手くPRしながら地域活性化に寄与するスキー場にしたい。
- サマースキー等の新しい取り組みをし、うまく活用すべきである。今後も雪が降らないことを想定した上で、活性化する方法を考えるべきだ。

■ 牛岳温泉スキー場と周辺の関連施設一帯

- 予算を削減してきたことで個々の施設の魅力が低下している。全体的な方針もなくそれぞれの施設で運営しているため、地域活性化の視点が抜けていると思う。連携して地域全体の魅力につながるような利用者目線に立った改善をしていきたい。
- オールシーズン遊べるようになると良い。サマースキー、ドッグラン、パラグライダーなどもできるようにスキー場周辺の施設を一体化して利用できる工夫・PRをして、地域外の人に来てもらうような取り組みが必要である。
- スキー場周辺が使われるようになれば、他の観光施設も人が流れて全体的に利用率を増加させることができるのではないかと。若い人が集まってくるようなイベントの誘致などを検討しても良いと思う。

■ 牛岳温泉健康センター

- 将来的に改修が必要になっても、廃止はしてほしくない。豊富な温泉は地域の大切な資源なので活用しなければもったいない。温泉を利用し、地域活性化に繋げていきたい。
- 階段が多く、改修してバリアフリー化して使いやすくないと衰退していくのではないかと。運営は民間委託や売却、譲渡といった方法は問わないが、その際、温泉は使い続けられるようにしてもらいたい。
- 合併後に市の他施設と利用料金を一律にして高くなったことで利用者数も大幅に減ってしまった。山田地域までわざわざ来てもらうことを考えると、他施設より料金を安くするなどの工夫が必要である。
- ふれあいの里ささみねと牛岳温泉健康センターの経営が別々となり、連携がうまくいっていないことが利用客が減少した一番の要因だと思う。隣接しているのにも関わらず、宿泊客が温泉に入る時には別料金となるなど、利用者にとって不便である。利便性を良くするためにも一体で運営してもらう方がよい。
- スキーを楽しんだ後に入浴するといった流れで、かつてはスキーと温泉を売りにしていた。合併後はそういった連携が図られなくなったことで、利用価値が下がっているのだと思う。

■ オートキャンプ場 きらら

- アウトドアブームであるにも関わらず、利用者が少ないのはPR不足だと思う。

■ フォレストアメニティ展望台

- 木造であるが、安全性を考えて改修のタイミングで取り壊した方がよいだろう。

5) 産業系施設（産業振興施設）

■ 山田農林産物加工直販施設

- 山田農林産物加工直販施設はとても頑張っていて、立地も良く地域内外からの利用率が高く山田地域で最も賑わっていると思う。なくす理由はない。
- 運営努力によって利用者が増えている。行政が所有していると用途に制限がかかるので、運営先に譲渡するのも良いと思う。その際、改修等が必要になるだろうが、運営側の負担が大きくならぬよう、行政からのフォローや補助をセットで検討してほしい。
- 農産物の加工施設があるが、あまり知られていない。新たに山田のりんごジュースなど特産品を加工する施設として活用できると良い。

6) 学校（小学校、中学校）・その他教育施設

■ 山田小学校

- 児童数は減少傾向にあるが、人数が少ないことで先生の目も行き届き、いじめ等もなく伸び伸び育っている。また、保育園、小学校、中学校と合同で運動会を行っているが、子どもたちの成長過程が見られて面白く、地域の人も見に来るので住民同士の繋がりも深まっている。少人数の良さもたくさんあるので、人数が少ないという理由だけで統廃合はしないでほしい。
 - 中学校が併設されていることを活かして、中学で習う科目を小学生のうちから学べるなどの特色を持たせて発信していくことで、地域外から通いたいという子どもが増えるのではないだろうか。
 - 児童数が減少している中で全体的な方向性として規模の縮小や統合を積極的に進めるとあるが、スクールバスで送迎して地域外から子どもたちを受け入れるなどの取り組みができないものか。
 - 今後、小学校も児童数が減少して空き教室ができるのであれば、保育所や児童館を複合化するのは、送迎もしやすく望ましいことである。ただ、園児の声が学習の妨げにならぬようにしてほしい。
 - 山田保育所は小学校の畑を野菜の収穫等で利用させてもらったり、運動会も合同で実施しているので、今でも十分連携はしている。小学校と保育所を複合化する緊急性は感じない。
 - 公共施設の総量を減らしたいのであれば、山田小学校に山田公民館の機能を複合化するという手もあると思う。
- ### ■ 野外教育活動センター
- 市外の学校が利用する件数が少しずつ減少しているようだ。野外教育活動に関する保護者の理解も得られなくなっていることも影響していると思う。教育委員会が積極的に本施設を通じて、野外教育活動の魅力や効果などを伝えていけると良い。
 - 地域住民は利用しないが、市内の小学校児童は2万人くらいいて、年間利用人数が延べ1万2千人ならば利用率は高いのではないだろうか。新型コロナウイルスの影響もあって外出がなかなかできないので、温泉もあり、森林浴や自然の体験ができる施設があるのは子どもにとって良い。山田地域の自然が施設の魅力につながっている。
 - 学校や、教育関係者しか利用していない。他の子どものいる家庭なども利用できるような活用方法も検討できると良い。

◆ 地域の将来的な公共施設の再編方針（案）

■ 野外教育活動センター

- ・ 射水市の子どもたちに野外教育活動センターに宿泊してもらい、山田小学校の学習演奏会を聞いてもらうという交流会を実施している。もっと市外の学校と山田小学校が交流をすることで積極的に野外教育活動センターを活用していくといったことも検討してはどうか。温泉がある教育施設は珍しく喜ばれると思う。
- ・ 夏は登山、冬はスキーなど、他の施設と連携して山田地域で楽しめる魅力を打ち出していくと利用者も増えるのではないかな。
- ・ 旧富山市が建てた施設で、学校単位での地域外からの利用が多いので、山田地域の施設という認識がない。地域の意見より利用者の意見を聞いて方針を決めたほうが良いと思う。

7) 幼保・子ども園（保育所）

■ 山田保育所

- ・ 高齢の方がお孫さんを送迎している場合もあるので、地域に保育園がなくなると送迎が負担になってしまうご家庭がある。利用者が少ないからといって廃止するというにはならないようにしてほしい。もしくは送迎バスを出すことで、負担を減らせるなど工夫してほしい。
- ・ 小さな敷地につくった建物なので、園児にとっても狭く、駐車スペースもないことから車での送迎も大変である。児童館の建物に複合化することで双方の課題を解決することができないだろうか。
- ・ 雨漏りを直してもらった。ますます老朽化は進むと思うので、今後については早めに検討し、対応をした方がよい。
- ・ 山田小学校を改築する際に、保育所、小学校、中学校を複合化しようという話があったが、保育所は国の管轄が異なるので実現しなかった。今後も厳しいだろう。

8) 児童館

■ 山田児童館

- ・ もともと冬季に積雪で通学できない子どもたちのための寄宿舎として利用していた建物だが、老朽化も進んでいる。建て替えるか、そうでなければ学校や学校に近い施設の公民館に複合化するのも良いのではないかな。学校から子どもが移動するので、学校に近い場所に立地していることが重要である。
- ・ 児童館に福祉、介護などの高齢者が利用する機能を複合化することで、お年寄り子どもたちが一緒に過ごせる施設にすることはできないか。
- ・ 駐車スペースが狭いため、広い場所を確保してほしい。

9) 庁舎等

■ 山田中核型地区センター

- ・ 中核型地区センターは地域の全住民が利用する施設なので、車を持っていない高齢者でもアクセスしやすい場所にあることが大切だ。

- ・ 中核型地区センターを山田公民館に複合化することで、用事が一箇所で済むようになるため利用しやすくなるし、管理費を抑えられて良い。
- ・ 土地改良区の事務所が入っているが、複合化する際は一緒に移転した方がよい。公民館であれば場所を確保できるのではないかな。
- ・ 中核型地区センターの敷地の大部分は市の所有で、公民館の敷地は借地のため、中核型地区センターに複合化したほうが借地料を抑えられるのでコストが安くて良い。
- ・ 災害時に司令塔の機能を果たすので、安全な場所に立地した方がよい。山田総合体育センターは高台にありアクセスもしやすく、駐車場が広いので、車で避難する方にも良いと思う。ヘリコプターも降りられると思うので、災害時の対応もしやすいのではないかな。ただ、機能移転するにはスペースが足りないかもしれない。
- ・ 好立地な山田総合体育センター駐車場などに、中核型地区センターを新たに建ててもらうことが理想である。しかし、財政的に難しいのであれば山田公民館への機能移転しかないと思う。
- ・ 山田中核型地区センターは、どの地区からもアクセスが良い山田公民館に機能移転するのが良い。川が氾濫した場合を考え、1階は地域住民が行政手続き等をする受付場所とし、2、3階の新しくできた研修室部分に通信機器の設置や大切な資料を保管し、災害時にも司令塔として機能できるようにすると良い。周辺は地滑り地帯となっているが、現在富山県が対策工事を行っているのでその問題も解消していくだろう。

■ その他

- ・ ワークショップの参加者だけで考えた計画と勘違いされるのが怖い。もっと広く意見を集める工夫をしてほしい。
- ・ 若い層の意見集約のために、オープンハウスを開催するということがあったが、若者がオープンハウスに来てくれるとは思えない。
- ・ 資料に優先的取り組みとか施設の適正配置といった言葉が出てくるが、富山市にとってのことが、地域住民にとってのことが明確にしてほしい。
- ・ 山田地域の人口を増やすことが必要だと思うが、住まいとして活用できそうな空き家は少ないし、宅地に適した土地もない。新築を建てられるように宅地造成をしてほしい。
- ・ 山田は多くのエリアが土砂災害警戒区域になっており、災害時に安全を確保できる場所が少ない。山田総合体育センター周辺に、地域の拠点となる複合施設を新築してもらうのが一番安心できるプランだと思う。
- ・ 山田地域は、昔から富山の奥座敷と言われていた。そのイメージを残すためにも癒やしの場、スローライフといったことを山田地域内の観光施設で体験できるようにすることで市内での存在感を高め、地域活性につなげたい。

ご意見募集

ワークショップに参加される方だけでなく、多くの山田地域の皆様のご意見を今後の計画に反映させたいという考えのもと、ご意見を募集します。

- ワークショップで検討されている内容について
- 山田地域のまちづくりや公共施設について

下記の「お問い合わせ先」まで、メール・ファックス・郵便などにより、どうぞお気軽にお届けください。また、差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

皆様のご意見をお待ちしています！



お問い合わせ先

富山市企画管理部行政経営課
 電話：076-443-2021
 ファックス：076-443-2170
 E-mail：gyousei-01@city.toyama.lg.jp

公共施設マネジメントに関する情報

富山市の公共施設マネジメントに関する情報はHPでご紹介しています。
<http://www.city.toyama.toyama.jp/kikakukanribu/gyouseikeika/sougoukanrikeikaku/sougoukanrikeikaku.html>

